

『腰痛の腰痛のプライマリ・ケア』

(第1版第3刷まで)

正誤表

本書におきまして、下記の通り記載内容に誤りがございました。訂正してお詫びいたします。

●p.94 8行目より

(誤) 膝伸展位での下肢挙上運動を行わせることで仙腸関節において腸骨前方回旋の負荷が加わり、患者はその負荷に抗するようにハムストリングなどの腸骨後方回旋筋群を活動させることになり、その抗力によって腸骨を後方回旋方向に誘導します(図 18A)。逆にニューテーション型の障害の場合には、腹臥位にて、徒手抵抗下に膝関節の屈曲運動を行わせることで大腿直筋の活動によって腸骨は前方回旋方向に誘導されます(図 18B)。

(正) **膝伸展運動を行わせることで、代償運動として腸骨後方回旋が生じることを利用し、腸骨を後方回旋方向に誘導します(図 18A)。逆にニューテーション型の障害の場合には、腹臥位にて、徒手抵抗下に膝関節の屈曲運動を行わせることで、代償運動として腸骨が前方回旋することを利用し、腸骨を前方回旋方向に誘導します(図 18B)。**

●p.95 図18 図説Aの2行目より

(誤) 膝伸展位での下肢挙上運動を行わせる。仙腸関節において腸骨前方回旋の負荷が加わり、患者はその負荷に抗するようにハムストリングなどの腸骨後方回旋筋群を活動させることになり、その抗力によって腸骨を後方回旋方向に誘導する。

B：ニューテーション型の障害の場合。腹臥位にて、徒手抵抗下に膝関節の屈曲運動を行わせ、大腿直筋の活動によって腸骨は前方回旋方向に誘導される。

(正) **膝伸展運動を行わせる。代償運動として腸骨後方回旋が生じることを利用し、腸骨を後方回旋方向に誘導する。**

B：ニューテーション型の障害の場合。腹臥位にて、徒手抵抗下に膝関節の屈曲運動を行わせ、**代償運動として腸骨は前方回旋方向に誘導される。**